

3年2月25日

岩手県議会議長 関根 敏伸 様

請願者

盛岡市本町通二丁目1番36号
岩手県社会保障推進協議会
会 長 佐藤 嘉夫

盛岡市本町通二丁目1番36号
岩手県労働組合連合会
議 長 金野 耕治

盛岡市本町通二丁目1番36号
全日本年金者組合岩手県本部
執行委員長 山田 勝哉

盛岡市本町通二丁目8番32号
岩手県生活と健康を守る会連合会
会 長 澤田 稔

盛岡市津志田26地割30番地1
岩手県民主医療機関連合会
会 長 浮田 昭彦

75歳以上の医療費窓口負担について原則1割負担の継続を求める請願

【請願趣旨】

政府は2月5日の閣議で、75歳以上の後期高齢者の医療費窓口負担について、現行の1割から2割に引き上げることを盛り込んだ医療制度改革関連法案を決定しました。

2割負担の対象は、単身世帯で年収200万円以上、夫婦ともに75歳以上の世帯では年収合計320万円以上とし、全国で約370万人、岩手県では3.1万人が該当します。2割負担となった場合の高齢者一人当たりの窓口負担額は、厚生労働省の推計によると現在の年平均約8万3000円から約11万7000円へ、約3万4000円もの負担増になるとしています。

年収に対する窓口負担割合で見ると、75歳以上は40～50歳代の2～6倍近い負担をしているのが実態です。75歳以上の高齢者は、年齢が進むにつれて複数の診療科にかからざるを得ず、受診回数が増えるからです。そのため、窓口負担1割の現在でも経済的事情で受診をためらい、重症化する事例が報告されています。さらに、新型コロナウイルスの感染拡大が受診控えに拍車をかけています。

高齢者の負担は医療ばかりではありません。介護保険でもすでに利用料の2割または3割負担が一定所得以上で行われています。医療も介護も保険料は増加の一途です。広大な岩手県では通院時の交通費も大きな負担になっています。

高齢者に2割負担を強いることは、受診をあきらめさせ命を脅かすことになります。日本医師会をはじめ多くの医療関係団体からも「更なる受診控えを生じさせかねない政策をとり、高齢者に追い打ちをかけるべきでない」と批判の声が上がっています。

新型コロナウイルス感染症から、高齢者をはじめ国民の命と健康を守る体制の強化が何よりも急がれる中で、それに逆行する負担増はやめるべきです。

については、貴県議会において下記の事項について採択してくださるよう請願いたします。

【請願項目】

1. 国に対し、75歳以上の医療費窓口負担について原則1割負担の継続を求める意見書を提出してください。